

あ と が き

本センターの発足以来、既に21年が過ぎているが、今この報告書を書いていると少し気になることがあります。

学生の栄養、衛生、精神衛生の各視点からみて、本センターがはたすべき役割を方向づけようとする時、基本的情報源となる定期健康診断が次第に徹底しなくなっていることが、その第1です。前頁の参考資料(1)にみるように、定期健康診断の受診率が少くともこの10年間、次第に低下しています。そして業務報告の中に述べましたように、新入学生の受診率も同様です。学生が健康に関心をはらうようになる「環境づくり」が是非とも必要ですが、いざ対策をと考えるとなかなか良い案が浮かびません。従来とはちがう健康診断項目を導入し、学生の関心をひきつけるのも一つのやりかたでしょう。

第2に気づくことは、保健管理センターの診察室の利用状況です。参考資料(2)にみる如く、疾病(内科、外科、その他)に伴う利用はある程度頭うちで、今後は検査、カウンセリングのための利用が次第に増加することが予想されます。この点は、医学レベルに見合った本センターの充実が前提となります。例えば、学生の血圧異常者が増加する傾向にあることを考えると血液生化学検査が血圧測定と併行して行われねばなりません。又、カウンセリングをさらに受け入れようとするれば、学生相談室をより気楽に利用できるよう施設の改善が必要となります。

まずこれらの点、即ち、疾病の発見と予防のためには今日の医学レベルに見合う血液検査、精神衛生のためのカウンセリングの充実を行えば、本センターはより活用されるようになると思われます。本センターをたとえゆっくりでも、着実に、充実できることを願っています。

(中林 記)